

# がん看護実践能力向上のための独習型教材設計における 学習目標と合格基準の明確化

Clarification of Learning Goals and Passing Criteria in Self-Learning Material Design  
for Practice Nurses in Cancer Nursing

菊内 由貴<sup>\*1\*2</sup>, 中野 裕司<sup>\*2</sup>, 鈴木 克明<sup>\*2</sup>, 平岡 斎士<sup>\*2</sup>

Yuki KIKUCHI<sup>\*1\*2</sup>, Hiroshi NAKANO<sup>\*1</sup>, Katsuaki SUZUKI<sup>\*1</sup>, Naoshi HIRAOKA<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup> 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

<sup>\*1</sup>NHO Shikoku Cancer Center

<sup>\*2</sup>熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻

<sup>\*2</sup>Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞がん看護の質向上を目指して行われている「がん看護実践に強い看護師育成研修（厚生労働省）」は、研修期間が40日間程度と長期間である一方で、学習目標が不明確であり、獲得能力の証明が行われていない。本稿では、従来版研修の学習目標をガニエの5分類の観点から分析し、研修における学習目標の細分化・構造化および合格基準の設置を行った。さらに、知識習得・事例演習、臨床応用と学習目標を段階的に整備することで独習が可能な設計とし、専門家レビューにより改善を行った。本研究の成果により、集合研修による拘束期間の短縮化、他の研修との整合、内容重複の回避等を可能とし、効果的・効率的な能力獲得と臨床能力の質向上に貢献するものである。

＜キーワード＞ 看護教育、インストラクショナルデザイン、教育方法、自己学習力、eラーニング

## 1. はじめに

がん看護の質向上を目指して行われている「がん看護実践に強い看護師育成研修（厚生労働省）」は、約40日間という長期間にもかかわらず、研修による能力の内容が不明確であり、また能力獲得の証明が行われていない。そのためその他の資格認定に関連する能力との整合が行われず、長期間の時間を費やすことのメリットが得られないという課題が上がっている。本研修において日本がん看護学会が提供するプログラム案を参考とした研修（以下、「従来版研修」とする）について、鈴木の（鈴木,2008）IDの5つの視点からを明確化するために、「教育・研修のIDチェックリスト」を用いて分析した結果、IDの5視点すべてにおける課題が明確になっている（菊内他,2015）。

本稿では、この従来版研修について、ガニエ（ガニエ,2007）の5分類の観点から分析し、研修における学習目標の明確化と獲得能力を証明するための合格基準の明確化を行う。本研究の目的は、研修における学習目標を評価可能なレベルまで細分化・構造化するとともに、合格基準を設置することによって、研修における獲得能力を証明す

ることである。

## 2. 学習目標と合格基準の明確化

従来版の学習目標は、「～を理解する」という認知行為等を示しており、学習目標の到達を確認することができない。そこで、学習目標の達成および評価を可能とするために、6つの研修目的および26の学習目標について、学習課題の分析により、学習目標を可能な限り細分化し、ガニエの学習目標の分類に基づき「言語情報」「知的技能」等の学習成果に基づく分類を示した。その結果として、学習目標は、計172項目に細分化された。さらに、知識習得・事例演習・臨床応用の3ステップに基づく構造化を行った。具体例として「危機理論を活用した看護」の一部を表1に示す。

また、新たに設置した合格基準を表2に示す。合格基準の設置は、知識習得・事例演習・臨床応用の各ステップに設置した。言語情報に基づく知識習得では、確認テストの設置により満点を合格基準とした。知的技能に基づく事例演習ステップでは、判断力を確認テストと事例場面に対するレポート記述を課して合格基準を設置した。さらに臨床応用では、自身の臨床体験を素材として、レポート課し、合格基準を設置した。

**表1 「危機理論を活用した看護」の学習目標と課題分類**

段階	学習目標	課題分類
知-1	アギュレラの危機理論の特徴とその活用方法について述べることができる	言語情報
演-1	事例に対して、アギュレラの危機理論が適用できる理由について述べることができる	知的技能
演-2	事例に対して、アギュレラの危機理論を適用し、危機状態の特徴を述べることができる	知的技能
演-3	事例に対して、アギュレラの危機理論を適用し、危機状態の特徴に基づく看護計画を述べることができる	知的技能
演-4	事例に対して、アギュレラの危機理論を適用し、危機状態の特徴に基づく看護計画実施後の、評価および改善計画を述べることができる	知的技能
応-1	受け持ち患者に対して、アギュレラの危機理論が適用できる理由について述べることができる	知的技能
応-2	受け持ち患者に対して、アギュレラの危機理論を適用し、危機状態の特徴を述べることができる	知的技能
応-3	受け持ち患者に対して、アギュレラの危機理論を適用し、危機状態の特徴に基づく看護計画を述べることができる	知的技能
応-4	受け持ち患者に対して、アギュレラの危機理論を適用し、危機状態の特徴に基づく看護計画実施後の、評価および改善計画を述べることができる	知的技能

知: 知識習得 演: 事例演習 応: 臨床応用

認定看護師等、他の資格制度における合格基準との整合と系列化について検討することとする。

## 4.まとめ

従来版研修について、IDの視点から課題を明らかにし、学習目標の細分化・構造化および合格基準の設置を行った。さらに知識習得、事例演習、臨床応用と学習目標を段階的に整備した。本研究の成果により、独習を促進させるとともに、研修によって達成・未達成の学習目標が明確となり、学習の効率化につなげることが期待される。

がん看護実践における質向上を目指すためには、まずがん看護実践における具体的な学習目標を明確にした上で、研修によって何が達成できたかという獲得された能力を証明する必要がある。また、獲得能力を証明するためには、獲得すべき能力としての学習目標が個別の能力を表すまでに細分化されている必要がある。本研究の成果である、学習目標と合格基準の明確化により、がん看護実践能力の中で、学習者は、何を達成していく、何が未達成なのかを容易に把握できることから、すでに到達している学習目標に関する学習内容の重複を防ぎ、未達成である内容に集中して学習することが可能となる。このことにより、研修の効果・効率の向上に貢献することができる。

さらに今後、がん看護実践能力の向上を達成するためには、他の研修間の整合や連携を図ることが重要である。そのためには、研修の学習目標につながるがんの臨床看護実践におけるコンピテンシーについての明確化が今後の課題である。

本稿は、2015年度熊本大学大学院社会文化科学研究科（教授システム学専攻）の修士論文の一部である。

**表2 合格基準の全体像**

段階	課題	合格基準
事例演習	確認テスト受験	満点（※資料参照可）
	演習問題受験	満点（※資料参照可）
	自己課題レポート①	指定された項目で構成され、かつ指定文字数を超えていれば合格
	他者の課題レポートへコメント①	指定された項目についての妥当性がコメントができるければ合格
	自己課題レポート②	指定された項目で構成され、かつ指定文字数を超えていれば合格
	他者の課題レポートへコメント②	指定された項目についての妥当性がコメントができるければ合格
臨床応用	自己課題レポート	指定された項目で構成され、かつ指定文字数を超えていれば合格
	他者の課題レポートへコメント	指定された項目についての妥当性がコメントができるければ合格
	最終レポート	<p>レポート: 80点以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初回内容に追記していること(10点)</li> <li>・分量が2500字以上あること(10点)</li> <li>・指定された3点の項目が記述されていること(30点)</li> <li>・グループ討議の内容が反映されていること(20点)</li> <li>・各項目の内容に一貫性妥当性があること(30点)</li> </ul>

## 3. 専門家レビューと改善

従来版研修における学習目標および合格基準の明確化について、ID（Instructional Design）の専門家およびがん看護の専門家レビューを行い、さらなる改善について検討した。

### 3.1 IDの専門家

学習目標および合格基準の設置は、概ね妥当との評価を得た。さらなる点として「項目ごとの目標以外に、研修の大目標を明記する」「がん看護実践に強い人材についての定義があればよい」「知的技能の問題については、誤答の際に間違いの理由について考え方を示す」等の意見を得て改善を行う。

#### 3.1 がん看護の専門家

学習目標は、概ね妥当との評価を得たが、「合格基準は高すぎる」との意見が複数あり、研修のターゲット層ごとに検討することとする。特に、

### 【参考文献】

- ・一般社団法人日本がん看護学会,がん看護実践に強い看護師育成プログラム, <http://jscn.or.jp/program/index.html> (accessed.2016.07.07)
- ・菊内由貴,鈴木克明,中野裕司,平岡齊士（2015）地域におけるがん看護の質向上および均一化のための教育システム設計における課題と提案,第40回教育システム情報学会.34
- ・R.M.ガニエ,W.W.ウェイジャー,K.C.ゴラス,J.M.ケラー(著),鈴木克明,岩崎信(監訳)(2007)インストラクショナルデザインの原理.北大路書房,pp174-195
- ・鈴木克明(2008)インストラクショナルデザインの基礎とは何か:科学的な教え方へのお誘い.『消防研修』(特集:教育・研修技法)第84号:52-68